女性医師の窓

小松市民レガッタに参加して

公立松任石川中央病院　産婦人科　砂崎　紀子

小松市は、木場潟や梯川、前川など、広い水面がある水郷地帯で、ボートやカヌーなどの水上競技が盛んな土地です。2019年には、梯川と前川を結ぶ場所に、梯川ボートハウスが設立されています。

今回、この新しいボートハウスの元で、コロナ禍でなかなか開催されなかった、市民レガッッタが開催されました。

レガッタ開催の約１ヶ月前には、梯川上流で大水による甚大な被害が発生しましたが、関係者方のご尽力により、開催の運びとなりました。

このマイナースポーツのボート競技ですが、紀元前1430年のエジプトの碑文に記録されており、世界最古のスポーツの一つとされています。日本での最初のボート乗艇は、1855年の江戸時代末期になります。長崎海軍伝習所が教科の一つとして、カッター艇の乗艇訓練を行ったのが、日本初の競技用ボートへの乗艇記録とされています。日本での初レースは、明治２年のビクトリア女王の誕生日を祝うもので、横浜で英国軍艦の水兵達が行った、とされています。また、小松では、明治時代から校内でボートレース大会を行う学校があったそうです。

本レース当日は快晴で、白山連邦が眺望できました。ナックルフォア艇に乗るのは、数十年ぶりでしたが、体がしっかり覚えていてくれて、楽しく300ｍのレースを全う出来ました。進行方向に向かって、先頭から、バウ、２番、３番、整調、コックスが座ります。コックスだけが、進行方向を向いて、キャッチ、ロー、と合図をかけて、舵取りをします。漕ぎ手は、自分の背側方向に進むので、スタートダッシュで遅れをとると、他のクルーを見る事が出来ません。オールの長さは３ｍ以上もあり長く、指示通りに的確に水中から出さないと、ブレーキとなってしまい、いわゆるはらきり、という状況になります。練習中、数十年ぶりにはらきりも体験してしまいましたが、懐かしい感触でした。

今後も開催されると思いますので、ご興味のある方は、ぜひエントリーしてみて下さい。